

## 展示のみどころ 〈時代の背景〉

安政元年の“札潰れ”から、翌年の相撲開催へ

幕末の岡山藩では、海岸警備や飢饉対策などで財政がひっ迫し、安政元年十一月五日、藩札（銀札）の切り下げを余儀なくされました。

庶民の暮らしを直撃するこの措置には市中騒然とし、暴動にもなりかねない状況でしたが、その日の夕刻に発生した安政大地震のため、取付け騒ぎどころではなくなりました。

こうしてその年は混乱のうちに過ぎましたが、景気は依然としてどん底で、岡山の町は冷え冷えとした雰囲気に包まれていました。

岡山藩ではそれまで、喧嘩や騒乱、風紀の乱れが起こりやすいとして、群衆が集まる相撲や芝居の興行を禁じていましたが、商売の円滑と市中の活気のため、興行元の釘貫鉄蔵（くぎぬきてつぞう）からの出願と、有力町人たちの取り次ぎを容れて、安政二年には相撲興行が行われることとなりました。

岡山市立中央図書館には、当時、岡山城下の惣年寄（そうどしより）役を勤めていた国富源次郎の子孫、国富家から寄贈された古文書が所蔵されています（国富文庫）。

有力町人から選ばれた惣年寄とは、上級武士から任命される町奉行（城下町の施政の長官で司法・警察をつかさどった）のもと、各町との連絡にあたり、市政や経済政策の実務にあたっていた役職です。釘貫鉄蔵の興行願いを町奉行へ取り次ぎ、これが藩の重臣会議で審議され、認可されると町奉行から惣年寄を通じて市中の各町へ触れが回されました。こうして大雲寺や蓮昌寺などの市中の大寺院の境内で、相撲が盛大に執り行われました。

このようにして岡山でも相撲が盛んになり、その歴史が大正〜昭和初期の横綱、常の花の誕生へ続いていきます。

### 参考文献

- 「岡山市史 学術体育編」（岡山市史編纂委員会、一九六四年、三五六〜三六一ページ）  
片山新助「近世岡山町人の研究」（楓亭文庫、一九八四年）  
同「よみがえる岡山城下町」（山陽新聞社、一九九六年。八三〜八五ページ）  
和気町歴史民俗資料館 平成十七年度特別展示「すもうのルーツ」（和気町歴史民俗資料館、二〇〇五年）

展示品から

「相撲番付」安政二年十一月（当館蔵・国富文庫）



これは岡山の大雲寺で開催された相撲の番付です。

由来は不明ですが、相撲興行の認可手続きに際し国富家に保管されたのかも知れません。このとき全国各地の出身の力士が、岡山へ集まったのでした。

下方に名がある興行元（勸進元）の釘貫鉄蔵（くぎぬきてつぞう）は、岡山城下の児嶋町で生まれ、大坂・江戸で相撲を習い、当時の名力士、雲龍久吉に師事しました。帰郷して相撲を興行し、その後継者の明治時代まで岡山の中心的な相撲興行主として、普及に貢献しました。

左端下には番付の版元の記載があり、備前西大寺の湊屋三郎兵衛の名がみえます。